

令和5年度学校関係者評価委員会報告書

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員（アイウエオ順）

岩谷 清一（実習地・TOWN 訪問診療所昭島本院・作業療法士）

大石 洋人（就職先・社会医療法人 河北医療財団

あい訪問看護ステーション平尾・理学療法士）

大関 健一郎（養成校・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）

田村 浩子（自治体・小金井市保健福祉部 介護福祉課 包括支援係）

西本 典良（卒業生・医療法人コマクサ会虹の森・理学療法士）

濱野 智徳（地域・濱野智徳公認会計士税理士事務所）

森川 美智恵（高等学校・聖パウロ学園高等学校進路指導担当）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和5年9月21日 （会場 社会医学技術学院）

第2回委員会 令和6年2月29日 （会場 社会医学技術学院）

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書(令和5年度)

基準1
教育理念・
目的・
育成人材像

- ① 多職種との連携や地域包括ケアシステムが推進されている現状を受けて、現場ではコミュニケーション能力が求められています。また、制度改定や働く場所の領域拡大も踏まえ、柔軟性、学び続ける姿勢、チャレンジ精神を持つことがより良いリハビリサービスを提供する上で不可欠だと感じています。学生時代からモデルを持っていることは良いことだと思います。卒業生による症例モデルを活用した授業や50周年記念であったような卒業生がどのように働いているのか、またその動機や志などを聴く機会をつくることは有用だと思います。
- ② 年々、学生の特性なども変化し、教育体制は難しくなっている。基礎力も重要であるが、1人1人の強みを活かした教育体制も必要になってくると感じている。
- ③ 入学時基礎学力試験の結果を踏まえ、専門教育の授業資料などを能力に合わせて再構成し作り直す必要があるかもしれない。最近の学生は、教科書を読むことすらも苦勞しているのを見る。そのレベルの学生に、教科書に書いてあると言っても通用しないので、如何に理解させて有用な人材にしていくのか難題である。
- ④ OT 学科再編を機に学院創設の起源ともいえる理念の再構築を進める必要があるのではないのでしょうか。従来学院を特徴づけたコンセプトは「働きながら学ぶ」というところにあった。それは単なる苦学生への賛歌というわけではなく、それが世に受け入れられたのは、医療でもない、福祉でもない「リハビリテーション」という新しい思想と新しい専門職が時代の中で求められ、そのニーズに学院創始者たちが果敢に挑んだからであると思う。「社会医学」と「リハビリテーション」の親和性は極めて高い。創設の時期といい、このネーミングのセンスといい、抜群の時代感覚があったからこそのスタートであったように思います。
今、夜間部の OT 学科を昼間部に変更するという事は、単なる学生募集という戦略的な観点からのみ進めるのではなく、これを機に学院として大きなコンセプトの発展という視点で取り組む必要があるように思います。重要な課題は、改めて今日のトータルヘルスシステムにおけるリハビリテーションをどう語り、その実践者としてのセラピスト像をどう語るのかという課題です。1970年代謳われた「全人的復権」というリハビリテーションの姿はその50年後の今日、果たしてどこまで実現しているのだろうか、あの時描いたリハビリテーションというわくわくしたワードを今、我々はどれだけの満足感をもって語る事ができているのだろうか。
これを機に「働きながら学ぶ」をどう発展させるのか、どんな魅力的なりハビリテーション像を示せるのか、そんな契機にしてほしいと思います。
- ⑤ 入学時基礎力試験の分析を活かして、国試の結果に成果が出ています。一方で、退学者数が増加しており、退学者数を減らすための原因分析と明確な対応策の策定が必要です。
募集の定員割れを起こしているため、PT・OTの良さ、専門学校の良さを社会に伝える必要があります。
- ⑥ 新型コロナウイルス対策を行いながら、新カリキュラムに沿って行われていると思います。

<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<p>⑦『自己評価報告書』に「医療・介護分野におけるシステムの変更」及び「学生が新しい医療・介護システムを身につける」とありますが、具体的にどのようなことなのか、広く周知されていなければならないと感じました。このシステムの変更は働く環境や働き方等にも変更があることを示唆しているように感じます。そうであれば、今の社会で、理学療法士、作業療法士の働き方がどうなっていくのか、これから入学してくる高校生にも周知する必要があると考えます。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>① データ運用の効率化、情報漏洩の対策が今後より重要になってくると思います。客観的な視点からの検証をよろしくお願いします。</p> <p>② 多様性の時代となり、運営も大変になってきています。経営ももちろん大事ですが、通いたい学校、行きたいと思える学校運営をお願いしたい。</p> <p>③ 作業療法学科の昼間部移転に伴い、本当に学生が集まるのか。そのための具体的な広報活動について聞いたかった。</p> <p>④ 特に問題はないように思います。</p> <p>⑤ 良い運営ができています。</p> <p>⑥ 50年にわたり円滑に運営されてきたことは素晴らしいと思います。運営方針の課題に「運営方針が安定して維持されるために、それらを時々確認し合う必要がある」とありますが私もそのように思います。実際に即断が必要な場合でも、この理念や教育方針に立ち戻って判断することで間違いのない判断ができるのだと思います。総括にも見られますように「個々人が理念をどのように理解しているかが重要」であり、判断に誤りがないようにたびたび立ち戻ることが大切と感じます。教育理念や教育方針を踏まえたうえで、一人ひとりの教員にどの程度の自由裁量があるのかも、教員のモチベーションに繋がっていくと考えています。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>① 国家試験対策は各学科とも合格率が全国平均を上回り、努力が実を結んでいると言えます。また不合格者への支援もなされていて、当事者にとって心強いことだと思います。一方で社医学卒業生に限らず、国家試験合格後の能力と職場が新人に求める能力との乖離が広がってきている印象があります。卒業教育の重要性やPT・OTが素晴らしい職業であることを伝える機会が必要だと思います。卒業生や当事者とのトークイベントを開催しても良いかもしれません。</p> <p>② 時代と共にオンラインは今後も継続すると予測されます。顔の見える関係は重要であるが、対面とのハイブリットを活かし、学生の教育に当たって頂きたい。</p> <p>③ 新型コロナ対策が徐々に解除され始め、対面形式の授業や課外活動、クラブ活動、ボランティアなど以前の状態に戻せるように尽力していただきたい。</p> <p>④ 50周年の記念行事へ参加してつくづく感じたところですが、やはり社医学の先生方が個々の学生との間で作り上げた「一体感」「付き合いの良さ」は優れた教育実践として大いに売りに出せる場所です。学年、学科を超えて教員が学生を知っている、さらには教員のみでなく、事務スタッフさえ多くの学生の名前と顔を知っているそんな学校はそうはないわけです。おおいに外にアピールして学生募集などに役立ててもらえればと思います。</p> <p>⑤ 新カリキュラムの成果に期待しております。</p> <p>⑥ 新型コロナウイルスの影響により、従前どおりの授業や実習が行えない中、工夫を凝らして行っていると思います。</p> <p>⑦ 国家試験の合格率が両学科ともに素晴らしいと思いました。既に実施されていると思いますが、何がその結果をもたらしたのかを分析し、さらに改善しながら独自の指導法を確立していただきたいと思います。</p>

<p>基準4 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題に掲げられているように、国家試験合格に加えて、人間性や特技などを付加価値として備えた人材育成に取り組むことも重要だということに賛同します。 ② 養成校として国家試験合格はあくまで通過点として、1人1人の学びや成長を支援して頂ければと思います。 ③ 国家試験の結果は少し前までは低迷していたが、最近は目を見張る成果を出している。対策の方法を変えたと思われるが、その成果が出たことは素晴らしい。 ④ 学習成果としての集大成は言うまでもなく国家試験に合格することです。今回、全体に大きくその合格率を伸ばしたことは、相当先生方が頑張っていた成果であろうと思います。また、既卒者の合格率が半数に達していることは驚きに値するといってもよいし、これこそは教員の皆さんが頑張った証であろうと思います。何しろ既卒者はまず指導の俎上に載せることが大変ですし、学力の面のみならず、モチベーションの形成など現役受験者より時間的にも物理的にも学習効果の面でも比べ物にならない苦労があったと思われます。改めて頭が下がります。 ⑤ 合格率は上昇していますが、さらなる合格率の向上と高い合格率の維持が必要です。また、既卒者の合格率が低く、留意する必要があります。 ⑥ 国家試験合格率が全国平均を上回ったのか大きな成果だと思います。 ⑦ 卒業後の将来を見据えての学生一人ひとりの個性を育てるという視点から課題をあげられていることが大切な視点だと私も考えています。国家試験合格は当たり前(もちろん非常に大変なことだと思っています)、そのうえで、将来に向けて自分の強み、どのような付加価値をつけることができるのか、どの分野でのプロフェッショナルとなるのか、個々の得意分野を伸ばす学びにも魅力を感じています。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 課外活動はコロナ禍のため停止しているとのことですが、学生間の交流や学生生活の充実のためにも徐々に再開できる環境づくりをお願いします。メンタル面の事由による学生相談の利用者が増加しているとのことですが、就職後も継続してフォローが必要になるケースが少なからずあると思います。就職後はさらにストレスがかかると考えられ、学生時代から保護者も状況を把握していて、協力関係にあることが大切だと思います。 ② 近年、多くなっているメンタルフォロー。学生相談室も重要ですが、それ以外の対策も必要になりつつある。 ③ メンタル面での支援を必要な学生が増えているとあるが、成績低迷とメンタル面の不調には相関があるのでしょうか？メンタル面のフォローだけでなく、関係している問題を多面的に解決しなくてはならないのかもしれないかもしれません。 ④ 学生相談室開設頻度の増、カウンセラーの配置増など、とても良いことと思われます。 教員の側の模範とする学生像はどうでしょうか。年配者は若年者にいつも物足らなさを感じているもので、最近の若い者は・・・というとき、その背景には自分たちが育った背景や環境へのある種のノスタルジーがあるのでしょうか。時代が変われば人も変わるし考え方も変わるその当たり前の上に立ち、求めるセラピスト像ももっと豊かなものにして学生に向き合う姿勢が重要であろうと思います。

<p>基準5 学生支援</p>	<p>⑤ メンタルケアとともにメンタル力向上のための施策が必要と考えますが、専門学校ですので学修優先が良いと思います。</p> <p>⑥ 学生と教員との関係性が良く、学業のことだけではなく、生活面等についてもフォローしているところは学校の強みだと思います。</p> <p>⑦ 令和5年度より認められました「初級パラスポーツ指導員資格取得認定校」に対しては、高校生にとっても魅力的な資格だと思いますし、卒業後の働く場面の一つを具体的にイメージすることができると思いました。</p> <p>学生相談室を訪れる学生が増えているようですが、卒業生を送っている身としてとても心配しています。大学の方の話を伺っても、コロナ前と後の学生とを比較すると、コロナ後の学生はサークル活動に参加する学生も少なく、学園祭での模擬店出店にも不活発な様子だということでした。実際に高校時代には、入学式も行われず、部活動の勧誘もされずに、入学後の期待に満ちた緊張感もなく、自分が主役となり嬉し恥ずかしといった経験をしていません。何を計画しようにも制限がかかっておりました。仲間と協力してやり遂げる経験が高校生活から欠落してしまっている生徒たちです。もしかすると一から支援する必要があるかもしれませんが、せめて働きに出る前の学生時代のうちに学生時代だからこその楽しい思いをたくさん味わわせていただければと思います。</p> <p>就職に関しては100%の結果を出されていることに学院に寄せる信頼と安心感があります。ただ人手不足を招いている施設側から考えたときには非常に大きな問題を抱えていると感じました。人手不足になると働く環境としては悪循環を招きかねません。そうしたことを防ぐためにも是非、関係分野が力を合わせてことの重大性を訴えながら、必要な人材の確保と職場環境の改善・充実を目指して動いていただきたいと思います。超高齢社会のその先を迎える日本社会にとって人材が必要な領域であること、AIにとって代わることの難しい領域であることをもっとPRしても良いのではないかと考えています。それに反応する若者はきっと出てくると思います。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>① COVID-19の感染対策がなされ、クラスターの発生なく運営できていることはとても評価できます。一方で登下校の時間指定、図書館の利用など、感染状況に見合わせた緩和の取り組みをし、生徒同士の交流、徒手的技術を学ぶ機会の増加等に繋げていただきたいと思います。また、現状の臨床現場に見合った、教育器具類（IT機器等）の整備の検討・導入をお願いします。</p> <p>② リハ機器及び福祉用具は年々進化している。常に学生への環境もバージョンアップしていただければと思います。</p> <p>③ 学生たちが集える教室以外の場所（喫茶コーナーなど）は、現在はあるのでしょうか？</p> <p>④ 学生用ロッカーの改善やプロジェクターの更新など学生の声に沿った変化が進められていると思います。</p> <p>⑤ 良い環境です。</p> <p>⑥ 学内の設備はもちろん、実習環境についても整えられていると思います。</p> <p>⑦ 蔵書や標本等の保管スペースはどちらの学校も頭を悩ませる課題だと思います。実際の利用について、どのような状況にあるのか教えていただければと思います。</p>

<p>基準7 学生の募集と受入れ</p>	<p>① HP のトップ画面の変更、SNS を用いた情報発信等リニューアルが進み、情報をより分かりやすく、より得やすい環境整備が進められていると感じます。各コンテンツの検索者数の推移を確認すると良いと思います。社医学の強みは歴史があり、様々領域で活躍している卒業生が多くいることだと思います。卒業生の活躍や社医学で開催されている卒業後の研修会なども掲載されると社医学らしさがでて良いと思います。社医学入学の動機となる安い学費を打ち出しつつも、教員・事務職との関係性が近いこと（親身であること）、充実した教育内容、高い国家試験合格率、活躍している卒業生との繋がりもアピールしていくと応募者増加に繋がるかもしれません。また、気軽に参加できるオンラインでの学校紹介をして興味・関心を持ってもらい、対面イベントに繋げるというような流れがあっても良いと思います。</p> <p>② 現在の募集に関する対策は継続しつつ、地域に開けた学校、地域の役に立つ学校、子供から大人まで関われる学校を目指し、地域の催事などにも積極的に出て行って欲しい。</p> <p>③ 高校生や高校教員は、依然として作業療法についての理解が進んでいないように感じます。身体障害のみでなく、発達障害や感覚統合分野をもっと大々的に宣伝しては如何でしょうか？最近の学生や教員は、発達障害の子供については見聞があるようで、入りやすいかと思えます。</p> <p>④ 未曾有のコロナ禍でさぞや苦勞されと思います。説明会など順調に回数増を進められよかったですと思います。 あえて言えば、やはりネットでのアピールを最優先させることが必要でそのためだけに専属のスタッフを置いてもよいぐらいの課題であると考えます。どのようなホームページが良いのか、こちらから能動的に受験生を巻き込む Web サイトはどのように設計すればよいのか。大胆に取り組んでほしいと思います。 また、高校現役世代が専門学校よりも大学を選ぶ傾向は、入試のハードルが低くなった今日、より強くなるだろうと思われま。現役高校生のみにとらわれず、「セカンドキャリア形成」をキーワードに思い切った社会人入学、思い切った入学選抜に取り組んでほしいと思われま。</p> <p>⑤ 予算を割いて、学校のブランディングと WEB・SNS による広報を行っていく必要があります。</p> <p>⑥ 学生募集について、厳しい状況の中、工夫を凝らしながら様々な角度からアプローチしていると思います。</p> <p>⑦ 先日、兄弟に障がい者をもつ生徒で、将来はそのような子供達の役に立ちたい、と特別支援学校や療育園への就職を希望している生徒から相談がありました。以前特別支援学校に務めておりましたので、当時の仲間に、教員以外での働き方があるか聞いてみたところ、作業療法士の話も出てきました。そういえば『作業の時間』が確かにありました。このような形でも働き方があるのだと再認識した次第です。理学療法士についてはなんとなくはイメージができるのかと思いますが、作業療法士の活躍の場がどこにどのような形であるのか、もっとよく理解していないといけないと感じました。就職先の仕事の現場の声が、生徒や教員、保護者に届くように広報していただければと思います。</p>
--------------------------	---

<p>基準 8 財 務</p>	<p>① 定員充足と休退学者を抑える努力が健全な学校運営を進める上で必要であるため、作業療法学科の昼間部移行は妥当だと思います。また休退職者が増加傾向であることへの対応が必要です。PT・OTには一定の学力やコミュニケーション能力を必要とすること、また可能であるならば入学試験にSPIなどの適正検査の実施は有用であるかもしれません。事業活動収支差額比率は適正な数値となっているとのことなど、経営状態が安定していると考えます。</p> <p>② 今後の少子化も含め、学納金以外の収入を検討する必要はある。</p> <p>③ 問題はないかと思いますが、定員割れは避けたいところです。</p> <p>④ 問題はないと考えます。</p> <p>⑤ 健全な財政状態と経営成績です。</p> <p>⑥ 適正に行われていると思います。</p> <p>⑦ 健全に運営されていることと存じます。</p>
<p>基準 9 法令等の 遵守</p>	<p>① ハラスメントに関する窓口設置やコンプライアンスを遵守するための教育など、意識的に取り組みがなされています。入学時や見学・実習前に個人情報保護の指導を SNS 使用に対するガイドライン等を用いてお願いします。</p> <p>② コンプライアンスを遵守して頂ければと思います。</p> <p>③ 一部の報道で、大学などの相談室の情報が外部に漏れていたとのニュースを見ました。相談業務が多忙となっているようです、疲れからミスがないように注意してください。</p> <p>④ 問題はないと考えます。</p> <p>⑤ 問題ありません。</p> <p>⑥ 適正な運営がなされていると思います。</p> <p>⑦ 個人情報の取り扱いやハラスメント等学校全体で真摯に取り組まれていると思います。</p>
<p>基準 10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>① 市民公開講座、一般向けの HP コンテンツ、WEB 講座などがあるとより社会貢献がなされると思います。</p> <p>② 体操以外にも地域へ学校開放したり、地域のイベントにも積極的に参加し、地域貢献していただければと思います。</p> <p>③ 地域密着型の社会貢献を今後も期待しています。</p> <p>④ 特になし。</p> <p>⑤ 小金井阿波踊りやヒガコ・サマーフェスティバルなどへのボランティア参加を期待しております。そのベースになるのはサークル活動だと思います。</p> <p>⑥ 日頃より多大なご協力に感謝申し上げます。今後も、地域のニーズについてご相談させていただければと考えております。</p> <p>⑦ 高校生は身近で高齢者や障がいをもたれる方と接点を持てるとは限りません。小金井市と連携している「介護予防体操」を含め、高齢者に対する高校生のボランティア活動への仲介はできないでしょうか。</p>

<p>その他の ご意見</p>	<p>① 特になし。</p> <p>② 発言する人が偏らないよう、出席者は積極的に参加していただきたいです。</p> <p>③ 特になし。</p> <p>④ この「評価」のあり方についてもそろそろ検討が必要と考えます。「自己評価報告書」は有用ではあるけれども項目や書式が同じであるために毎年の積み重ねが見えにくいように思います。年度ごとに特に力を入れて取り組んでこられたことなどをお示し頂けると、より実効性のある「評価」ができるかと思えます。</p> <p>⑤ 資料は充実していますが、膨大であるため、何が現在の学校の重要な課題であるかわかりづらくなっています。 重要度の高い議題について、議論できるように考慮する必要があると考えます。</p> <p>⑥ 特になし。</p> <p>⑦ 職場への具体的でやりがいの持てるイメージがあれば、探究学習等で社会問題に取り組もうとしている高校生にとっては、とても興味・関心の向く分野だと感じますし、研究することによって自分の将来につなげていく生徒もいるのではないかと推測しています。まずは、魅力ある働く現場をどのように作り、どのようにアピールできるかだと思います。そのために様々な分野の協力が不可欠だと思いますし、早急に解決すべき課題だと思います。</p> <p>もう一つ、高校側の問題は深刻だと思います。18歳人口の減少により大学全入時代を迎え、公私にかかわらず高校の進路指導において大学への進学実績の向上を目指す学校が多々あります。そのようななかで、学院のもつ確かな技術の習得や豊かな人間性の育成、魅力的でやりがいのもてる就職先、そして家計にやさしい学費といった強みをどのようにアピールすることができるかが重要だと思います。</p>
---------------------	--